

横濱開港150周年

深谷通信所跡地利用アイデアコンペ報告書

Idea Competition for the Fukaya Communication Site



©Y150

2010年3月

深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）実行委員会

Fukaya Communication Site Idea Competition Organizing Committee

はじめに

深谷通信所は、直径約 1 km の円形、面積約 77ha の全域が国有地という、首都圏において無限の可能性を秘めた大規模空間資源であります。地球温暖化対策、防災、市民利用など広域や地域の環境再生や活性化につながるような、米軍施設の返還にふさわしいシンボル空間としての活用を図っていくべきです。

こうした趣旨に賛同した団体が実行委員会を結成し、横浜開港 150 周年を記念して返還後の跡地利用に対するアイデアコンペを実施しました。

本コンペには、国内外から 353 点（延べ提案者 984 人）という多数の応募があり、独創的で、先進的な優れたアイデアが寄せられました。また、第 1 次審査を通過した作品の展覧会に 1,622 人の来場者と 311 通の市民意見が寄せられるなど、このコンペ開催を通じて、深谷通信所の返還や跡地利用に対する社会的な関心も相当高まったものと考えます。

本コンペに応募、参加された方々に厚く御礼を申し上げますとともに、審査、会場提供、広告など多大なる御協力をいただいた方々に心から感謝をいたします。

深谷通信所の返還時期は、現時点では未定ですが、本コンペでいただいた様々な熱意が深谷通信所の返還と跡地利用につながることを期待します。

深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）実行委員会

委員長 岸井 隆幸

深谷通信所跡地利用アイデアコンペ報告書 目次

1 . アイデアコンペに至る経緯	1
2 . アイデアコンペの概要	2
3 . アイデアコンペの経過	3
4 . 入選作品	4
5 . 表彰式・シンポジウム	14
6 . 実行委員会の活動記録	17

1. アイデアコンペに至る経緯

(1) 横浜市内の米軍施設の状況

戦後、横浜市は連合国軍により市街地が広範囲に接収され、復興が大きく遅れました。これまで市政の最重要課題として多くの返還を実現し、2004年には大規模な返還方針が日米政府間で合意されました。

しかしながら、今なお市内には深谷通信所を含む米軍施設が約470haも存在し、都市づくりの大きな支障となっています。



(2) 深谷通信所の概要

所在：横浜市泉区和泉町、中田町

面積：約 77.4ha (全域国有地)

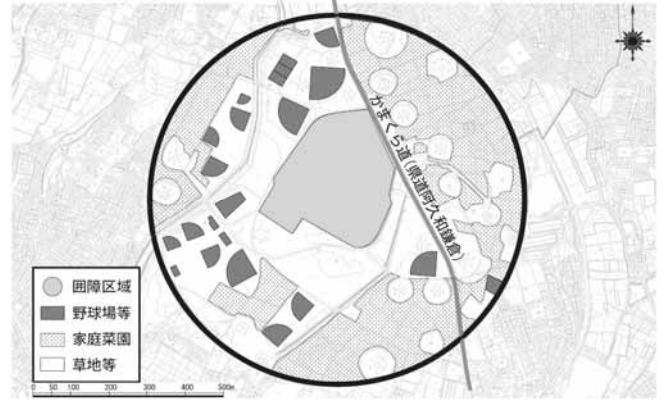
経過：1945年 9月 旧日本海軍の通信施設を米軍が接収

2004年 10月 日米合同委員会で返還方針を合意

2008年 10月 困障区域外のアンテナ等撤去

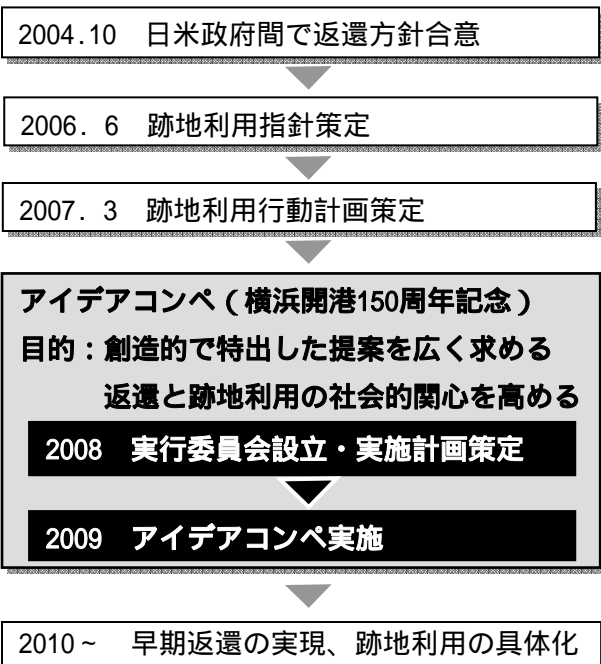


航空写真



現況図

(3) 深谷通信所の跡地利用検討の取組



基本的考え方

英知を集め接収跡地を未来に活かす
新しい都市づくりを先導する
関係者の協働により推進する
全体テーマ
横浜から始める首都圏の環境再生

具体的取組

より多くの人の参加を求める
・国内外を対象に日本語・英語の使用
・一般部門・専門部門の二部門を設置
・作品展覧会と市民意見募集の実施
広域・地域の環境再生をテーマに設定
複数の優れた提案を入選作品に選考

2. アイデアコンペの概要

競技方式	一般公開競技方式	
名称	深谷通信所跡地利用アイデアコンペ	
主催	深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）実行委員会	
応募資格	国籍、年齢、資格は問わず、個人又はそのグループでの応募	
使用言語	日本語又は英語	
提案内容	<p>深谷通信所の用地（約 77ha）を提案対象区域とし、いずれかの応募区分で提案の視点を参考に跡地利用のアイデアを提案して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案対象区域全体に対して提案し、一部のゾーンに対する詳しい説明を盛り込んでもかまいません。 ・提案内容には、テーマ、セールスポイント、その背景を文書で記載するとともに、イメージしやすいよう、対象区域に導入する機能や施設、活動のイメージを、図やグラフ・表などを用いて、できるだけビジュアルに表現して下さい。 ・横浜市では 2006 年 6 月に「横浜から始める首都圏の環境再生」を全体テーマとする「米軍施設返還跡地利用指針」を策定し、提案対象区域では、次の指針が定められているため、この内容を参考に各部門について、提案を行って下さい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>～自然・スポーツ・文化の円形緑陰空間～</p> <p>施設の円形形状や全域国有地という条件を活かし、米軍施設返還の象徴的施設として、また、首都圏の環境再生の拠点として、特色あるデザインや、自然・スポーツ・文化など広く利用者をひきつけるテーマを備えた大規模な緑の空間の形成を目指します。</p> <p>特色あるデザインを持つ大規模な公園・緑地</p> <p>特徴的な円形形状を活かし、広域的に利用される大規模な公園・緑地、自然レクリエーション空間として、横浜市郊外並びに県央における緑の拠点を形成します。</p> <p>交通便利性の向上に資する基盤整備</p> <p>外周道路や、環状 3 号線・環状 4 号線との連絡道路の整備を進めます。</p> <p>防災拠点機能の形成</p> <p>周辺地域・近郊地域の防災性向上に寄与する、防災拠点の形成を図ります。</p> </div>	
応募区分	A 一般部門	B 専門部門
提案の視点	(1) 地球温暖化対策、防災など 「社会的要請への対応」 (2) 市民利用、地域の活性化など 「地域への貢献」	左記の(1),(2) (3) 費用対効果、民間活力の活用、段階的整備など 「施設整備・維持管理の実現性・効率性」
提出物	A 3 判パネル 2 枚以内	A 1 判パネル 1 枚、電子データ
評価の視点	(1) 提案の独創性、斬新さ (2) 提案の印象深さ、親しみやすさ	左記の(1),(2) (3) 提案の妥当性、実現可能性
賞および賞金	入賞 10 点（賞金各 3 万円）	優秀賞 3 点（賞金各 50 万円） 佳作 5 点（賞金各 10 万円）
審査委員 (敬称略・50 音順)	委員長 小林 重敬 東京都市大学教授、横浜国立大学特任教授 委員 内海 宏 横浜プランナーズネットワーク 倉田 直道 工学院大学教授 齋藤 潮 東京工業大学大学院教授 近澤 弘明 横濱まちづくり倶楽部副会長 蓑茂 壽太郎 熊本県立大学理事長 山崎 洋子 作家	

3. アイデアコンペの経過

(1) 作品応募状況

2009年 4月15日 アイデアコンペ開始
 6月22日 事前登録締切
 8月24日 作品受付締切

	事前登録	作品受付
一般部門	407件	199件
専門部門	395件	154件
合計	802件	353件

作品応募者の状況

- 1) 延べ提案者数 984 人（共同提案者数含む）
 - ・一般部門：517 人、専門部門：467 人
- 2) 海外の国及び地域の応募 9 件
 - ・一般部門：シンガポール 2 件、アラブ首長国連邦 1 件、香港 1 件
 - ・専門部門：英国 1 件、米国 1 件、オーストラリア 1 件、香港 1 件、オランダ 1 件
- 3) 泉区・戸塚区からの応募 90 件
 - ・一般部門：78 件、専門部門：12 件

(2) 審査経過

2009年 10月20日 第1次審査
 一般部門30点、専門部門33点を選考

11月4日 第1次審査通過作品の作品展覧会・市民意見募集開始（11月22日まで）

- ・イトーヨーカ堂立場店（11月4日～9日）
- ・みなとみらいギャラリー（11月16日～22日）
- ・インターネット（11月4日～22日）

作品展覧会の来場者数：1,622人、インターネットアクセス数：1,643件
 市民意見数：311通（第2次審査に報告）

【作品に寄せられた市民意見の概要】

- ・自然、交流、子育て・教育、農業をテーマとした作品に多くの関心が寄せられた。
- ・跡地利用の具体的内容としては、公園・広場の整備、道路等の交通環境の改善、スポーツ利用、防災利用を求める意見が多く寄せられた。



作品展覧会
 （イトーヨーカ堂立場店）

2009年 12月4日 第2次審査
 一般部門：入賞10点、専門部門：優秀賞3点、佳作5点を選考

【審査委員会の総評】

- ・地元からの多数の参加に加えて、国内外の幅広い層の方々から多彩な作品が寄せられた。
- ・環境・食・農・防災など時代に即したテーマを的確にとらえた提案がなされており、有意義なコンペティションになったと考える。
- ・ここで得られた様々なアイデアを、今後、跡地利用の活用に結び付けることを期待している。



第2次審査

2009年 12月14日 実行委員会において、審査委員会選考作品を入選作品として決定

2009年 12月16日 横浜市長と実行委員会委員長による入選作品の公表

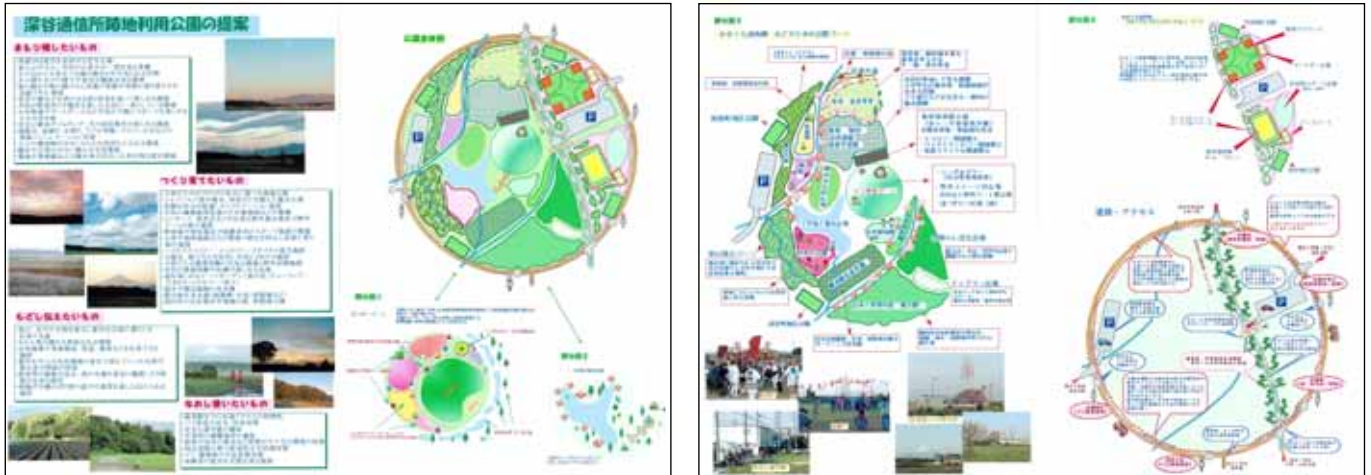


入選作品公表

4 . 入選作品

(1)一般部門（入賞 10 作品）

一般部門 入賞 深谷通信所跡地利用公園の提案



提案者： 染谷 篤

選考理由： この地域のことをよく理解し、市民レベルの利用が素直に表現されている。

一般部門 入賞 「こころの森」横浜市広域防災救援拠点公園（戸塚・深谷の森）

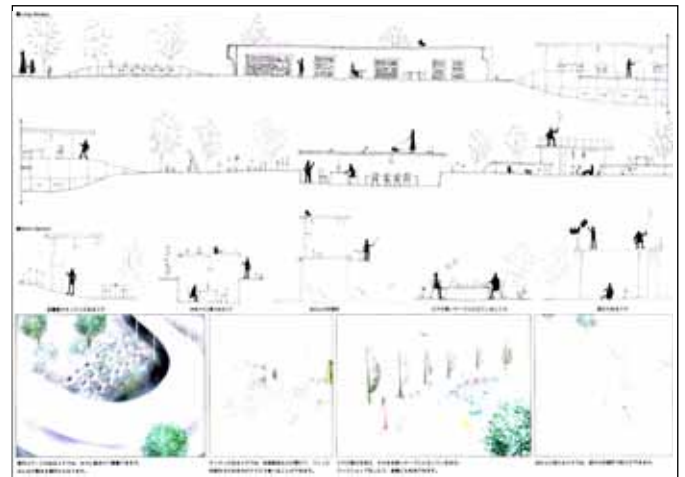


提案者： 井川 和樹（造形家・有限会社デザイン事務所 代表）

選考理由： 自然の森の復活と防災拠点の整備をバランスよく提案している。



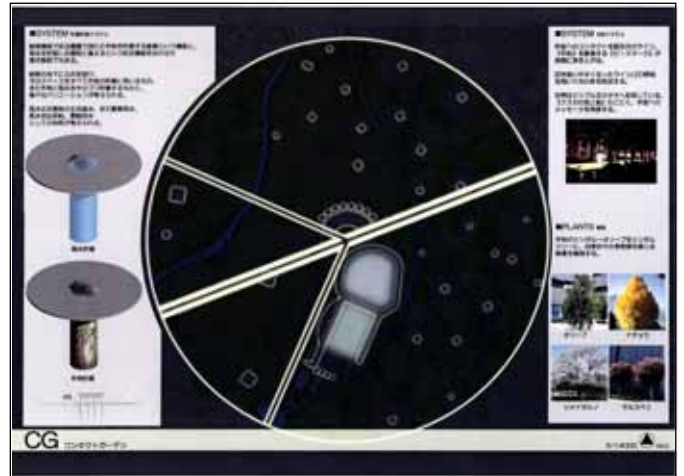
提案者： 中村 智子， 樋口 由香 （株式会社ランドスケープデザイン 設計部）
 選考理由： 夜間の公園の発想はユニークで、緑の象徴として鉄塔を上手く利用している。



提案者： 鬼頭 朋宏 （名古屋工業大学 工学部建築・デザイン工学科 若山研究室）
 選考理由： 自然を大切にしつつ、いろいろな活動をミチでつないでいく発想がユニークである。



提案者： 宮下 弘之， 鈴木 斌， 寺田 稔 （会社員）
 選考理由： テーマを食料生産に決め、デザインしている点が良い。



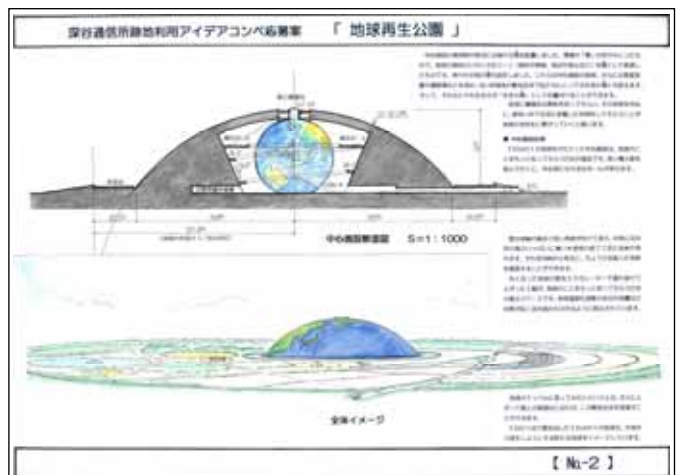
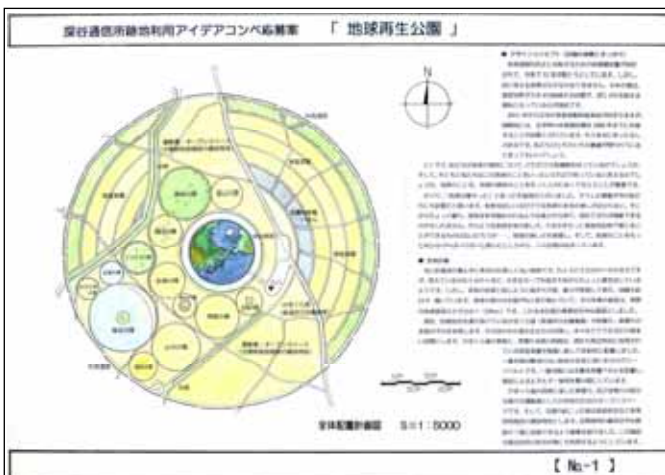
提案者： 若杉 弘之（株式会社佐藤渡辺 営業統括部）

選考理由： 幾何学的な形を用いながら、もとの土地の空間ののびやかさを失っていない点が優れている。



提案者： 木村 崇亮（多摩美術大学 美術学部環境デザイン学科）

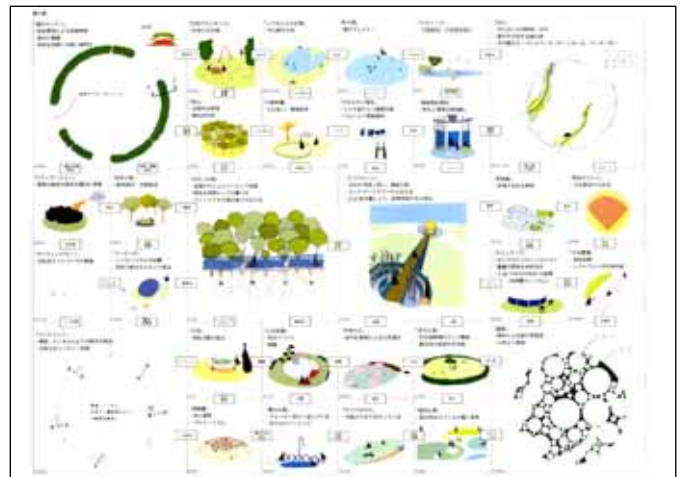
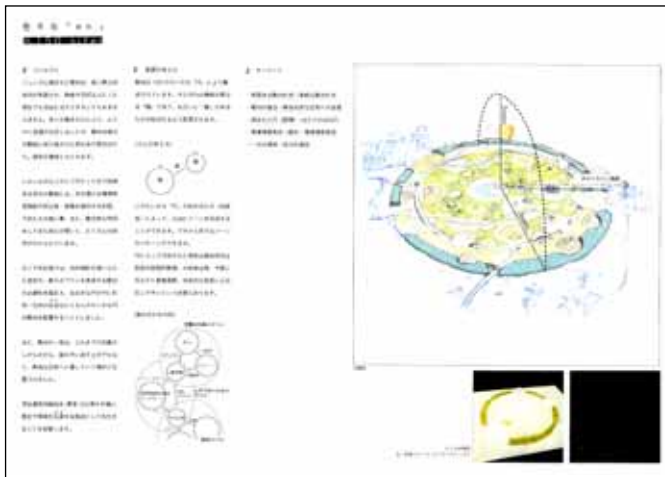
選考理由： 公園の敷地内に限定せず、街に浸潤する提案が優れたものとして評価される。



提案者： 齊藤 実（会社員/設計事務所勤務）

選考理由： 地球環境から考えるというダイナミックな構想力が優れている。

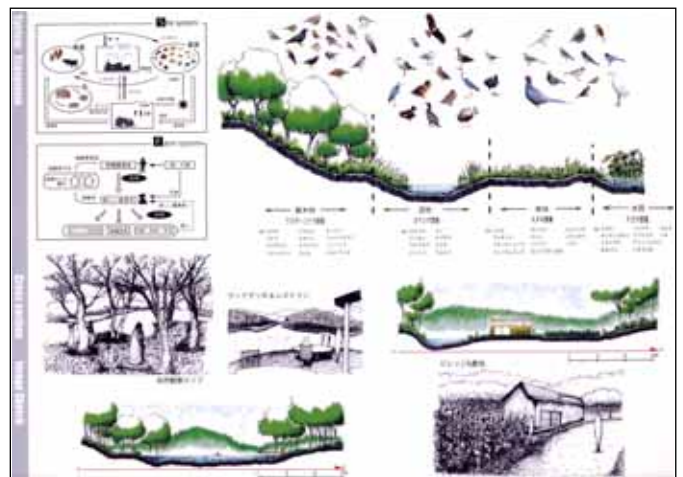
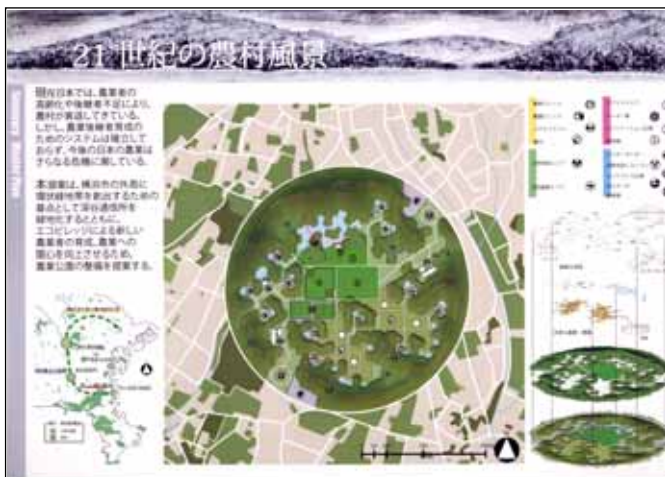
一般部門 入賞 **色々な「en」×150 sites**



提案者： 浅田 英司， 本村 嘉邦， 西崎 将
 (フリー，会社員/造園業，会社員/建設コンサルタント)

選考理由： 既存の土地のもっている特徴を活かし、150 の小さな円を連鎖させて全体を構成するユニークさが優れている。

一般部門 入賞 **21世紀の農村風景**



提案者： 塩谷 隆晃， 原 脩達， 穴倉 寛人
 (日本大学 生物資源科学部植物資源科学科 造園緑地学研究室)

選考理由： 自然との共生を前提として、農業後継者の育成を図ろうとする新しい都市農業への意欲的提案である。

注1) 一般部門の作品原寸はA3判の2枚組です。

注2) 作品は登録番号順に掲載しています。

注3) 作品テーマ等は、事務局が各作品から抽出したものです。

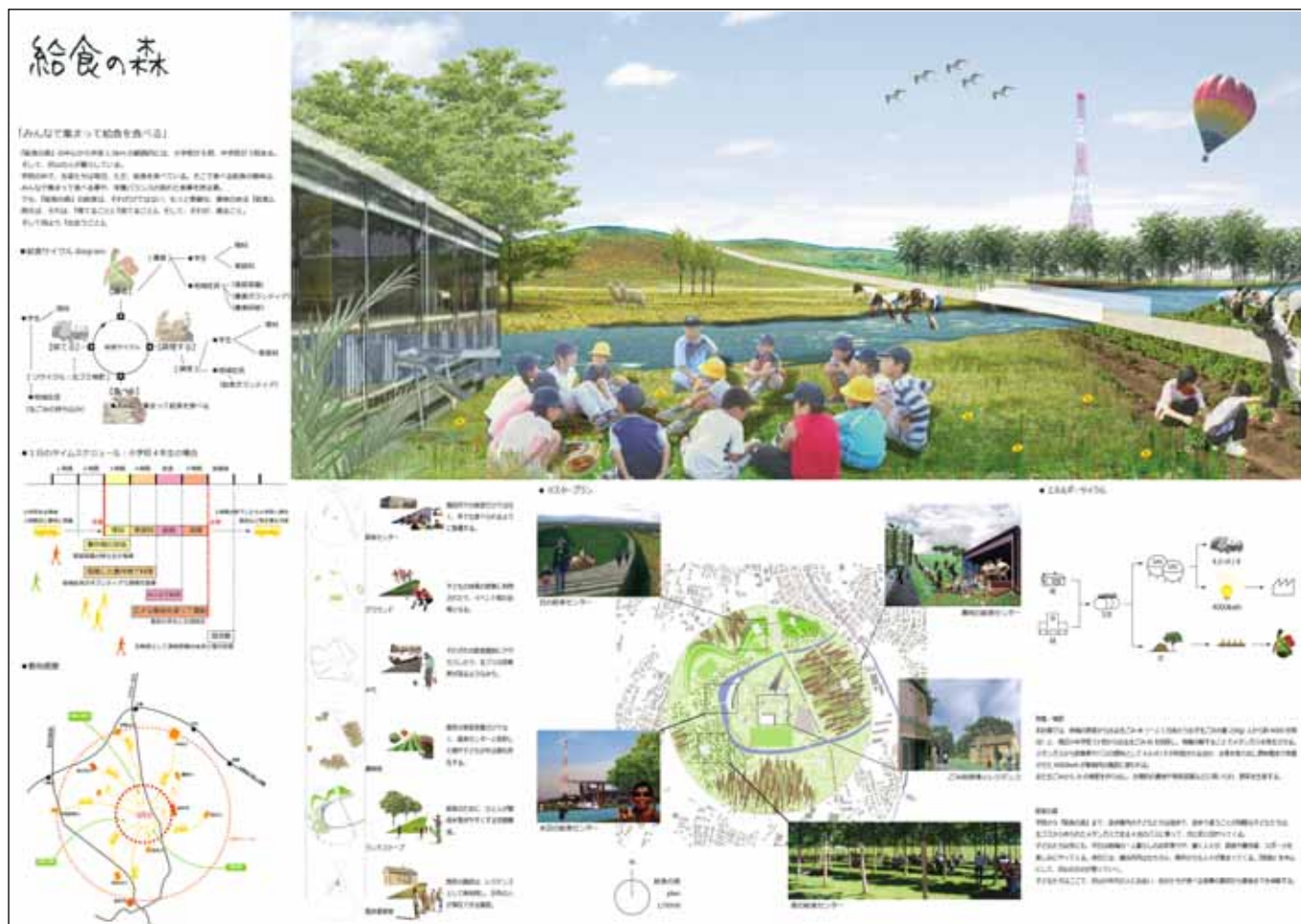
注4) 入選作品はウェブサイトで詳しくご覧いただくことができます。(一定期間経過後は閉鎖する場合があります。)

<http://www.city.yokohama.jp/me/keiei/kichitaisaku/ideacompe/index.html>

(2) 専門部門 (優秀賞 3 作品、佳作 5 作品)

専門部門 優秀賞

給食の森



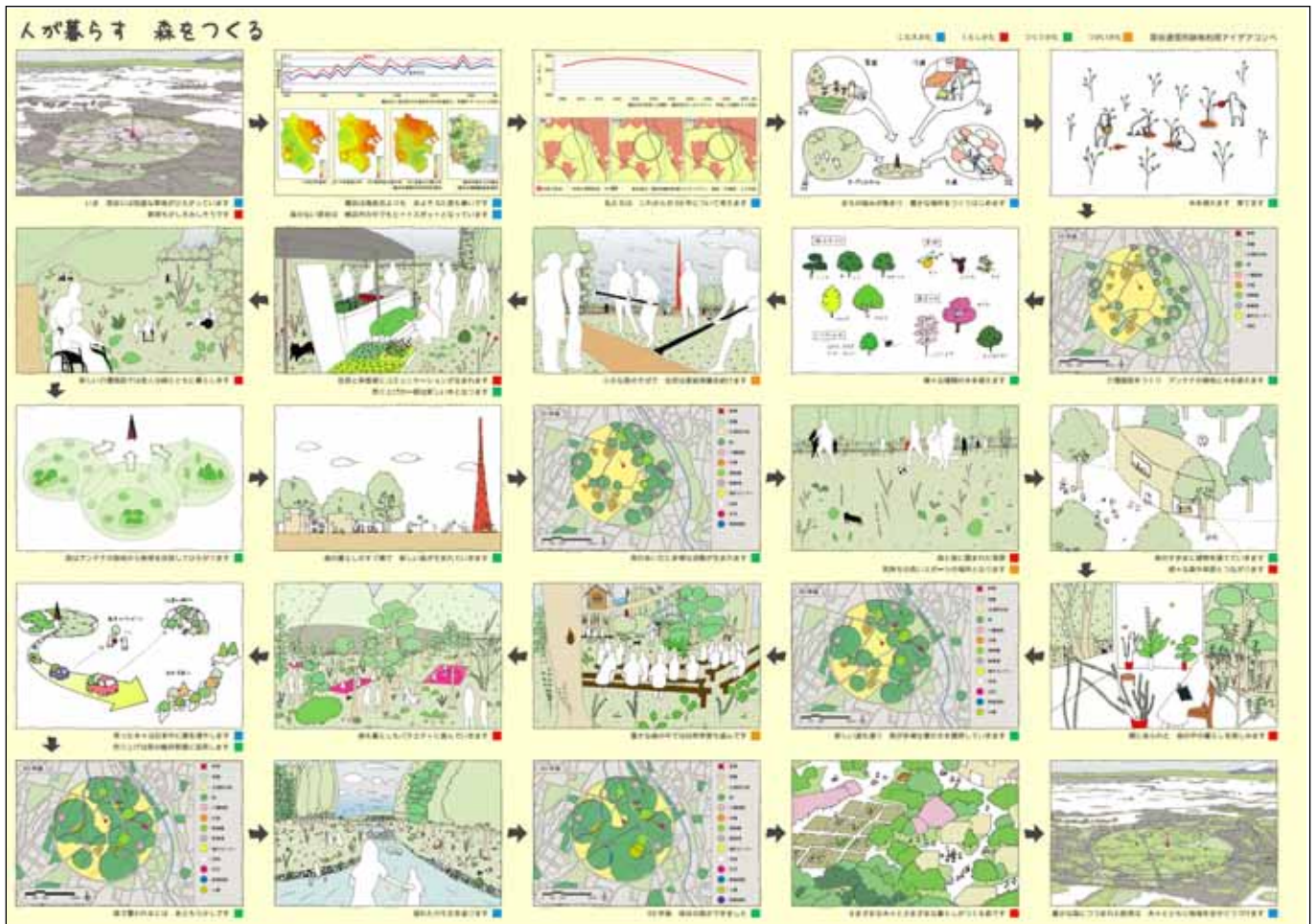
提案者： 渡部 将吾， 細田 紗千江， 長田 敬弘， 木村 勇樹， 杉山 晃一
 (関東学院大学大学院 工学研究科建築学専攻 中津秀之研究室)

- 選考理由：
- ・ 子どもたち自身が、食物を「育てる・作る・食べる・循環させる」という体験をすることができる。
 - ・ 子どもたちが食の現場に関わる人たちと出会い、交流することができる。
 - ・ 「給食の森」という切り口が斬新である。



提案者： 石川 幹子，片桐由希子，板川 暢，鹿内 京子，斉藤 直哉
 根岸 勇太，村山 健二，高取 千佳，パンノイ ナッタボン
 （東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 環境デザイン研究室）

選考理由： 地球環境の再生に地域から取り組むという考え方が、論理的な分析の上に、感性豊かに表現された作品で、世界に発信できる横浜モデルとして評価された。



提案者： 星野 裕司， 増山 晃太， 尾野 薫， 蓮尾 信彰
 長谷川雄生， 稲永 哲， 鍋田 仁人， 前田 明子
 （熊本大学大学院 自然科学研究科）

- 選考理由：
- ・時間の経過の中で、市民が参加し、関わりながら、現代的な課題への対応を巧みに表現している。
 - ・森づくりのプロセスをやさしい描き方で表現し、しかも、1つのストーリーとしてまとめ上げた力は評価できる。

専門部門 佳作 **5en(ごえん) 円妻沿縁園**



提案者：
藤原 美弥子，中村 加奈子
(miyadesign 代表，
株式会社センタヴィレ
代表取締役)

選考理由：
日本人の大切な心である
ご縁と、土地の形である円形
を上手く結びつけ、しかも、
緑の再生と地域住民のふれ
あいを大切にしたい夢のある
デザインである。

専門部門 佳作 **NEUTRAL LANDSCAPE**
“必要なこと・もの”を“必要なだけ”による質の高い定常型社会 / 環境の構築



提案者：
森 傑， 原田 慎一
今井 健雄， 坂井 文
渋谷 明広， 鈴木 淳
佐藤 正博， 菅野 克
千葉 博之， 小林 光輝
内藤 純， 野中 志帆
相場奈津子， 大瀧 悠
草刈 大， 森田 智子
衛 嵩
(北海道大学 建築計画学研究室，
清水建設株式会社 北海道支店)

選考理由：ニュートラル・ラ
ンドスケープというテーマ
に即した分析を綿密に行い、
優れた表現力で長期に渡る
シナリオを提案している。

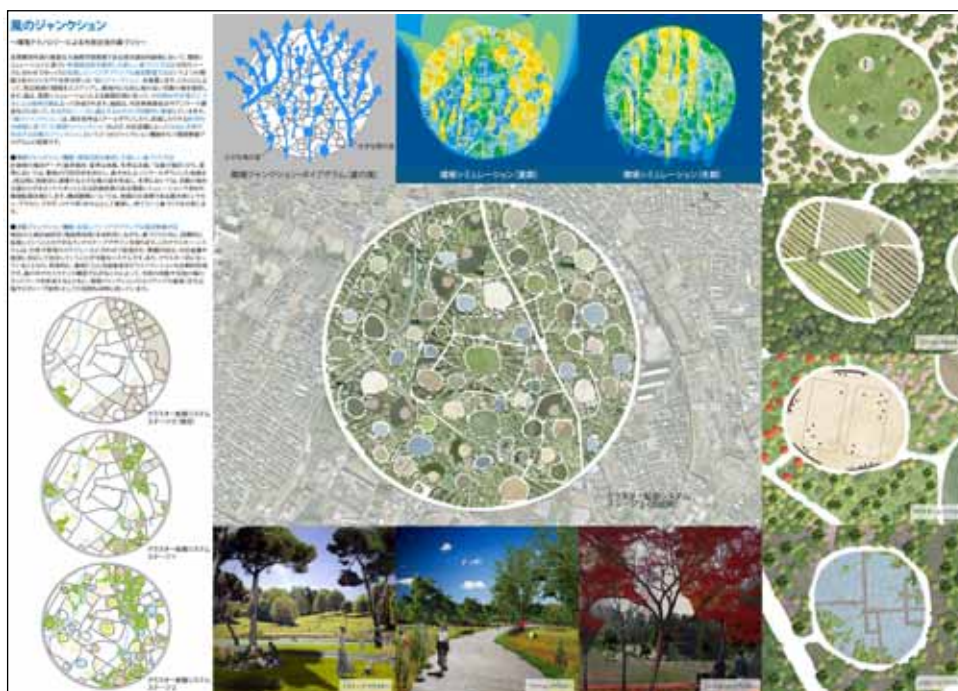
専門部門 佳作 **深谷 五丘五星 公園**



提案者：
 勝野 武彦， 小木曾 裕
 真鍋千恵子， 木内 健二
 (日本大学 生物資源科学部
 植物資源科学科
 造園緑地学研究室)

選考理由：
 それぞれ特色をもった5丘
 と2つの環というユニークな
 提案をし、さらに、地域献木
 システムなどの考え方が光っ
 ている。

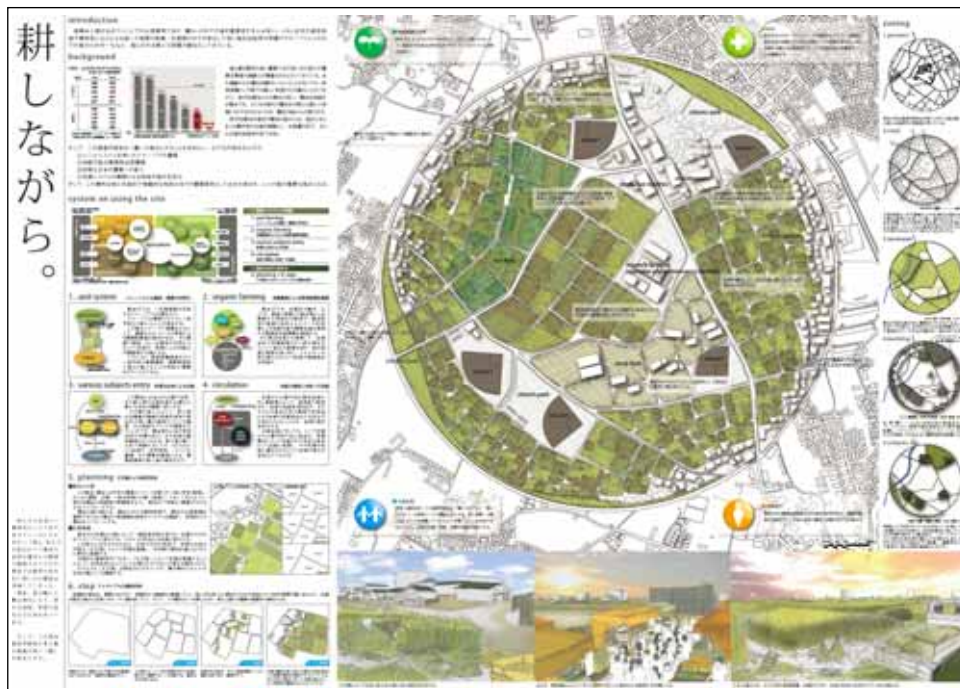
専門部門 佳作 **風のジャンクション ~環境テクノロジーによる市民交流の森づくり~**



提案者：
 長濱 伸貴， 豊崎 寛樹
 加藤 慧
 (神戸芸術工科大学
 環境・建築デザイン学科
 長濱伸貴研究室，
 小玉祐一郎研究室)

選考理由：
 数々の目的空間のクラス
 ターで部分を構成し、全体を
 風の道と位置づけた環境ダ
 イアグラムとその拡張シス
 テムの提案は評価される。

専門部門 佳作 **耕しながら。**



提 案 者：
竹内 祐太， 中原 雄太郎
花原 裕美子
(鹿児島大学大学院
理工学研究科建築学専攻)

選考理由：
「耕しながら」のコンセプトを掲げ、多様な主体が関わりながら、食と農を基本としたライフスタイルへと導く実験的な農業基地の提案が評価された。

注 1) 一般部門の作品原寸は A 1 判です。

注 2) 作品は登録番号順に掲載しています。

注 3) 作品テーマ等は、事務局が各作品から抽出したものです。

注 4) 入選作品はウェブサイトで詳しくご覧いただくことができます。(一定期間経過後は閉鎖する場合があります。)

<http://www.city.yokohama.jp/me/keiei/kichitaisaku/ideacompe/index.html>

5 . 表彰式・シンポジウム

(1)開催概要

日時：2010年1月30日(土) 14:00～17:00

場所：横浜シンポジア（横浜市中区山下町 産業貿易センタービル9階）

主催：深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）実行委員会 / 後援：国土交通省



全入選者に対する表彰状授与



入選者を交えたパネルディスカッション



入選作品の展覧会

(2)表彰式典

各者発言は概要を掲載

開会挨拶 小松崎 隆（横浜市副市長）



昨年、横浜は開港 150 周年という節目を迎えました。開港と接収は、共に江戸や東京を外圧から守るために横浜で受け止めてきましたが、開港は横浜の発展につながり、接収は戦後の復興を大きく遅れさせるものでした。

数年前に深谷通信所の返還方針が日米合意されました。今回のアイデアコンペのねらいは、貴重な米軍施設の跡地利用について多くの市民に喜ばれるアイデアを募ること、コンペを通じて早期返還を訴えることでした。

返還後、地域や関係者の方々と十分議論しながら、大勢の方々のご理解とご協力を得て望ましい利用方法をまとめていくため、今回のコンペがそういう運動の象徴になればと思います。

入選者の表彰 岸井 隆幸（実行委員会 委員長）



今回のアイデアコンペは、できるだけ多くの方にご参加いただき、地域あるいは広域の課題に対して、優れたアイデアを広くいただき、今後の跡地利用の検討に活かしていただきたい、そういう思いを持って、実行委員会を組織し運営をまいりました。

今日は、その成果を報告させていただくことを大変嬉しく思います。これらの成果が、今後の土地利用に活かされることを期待しています。

審査総評 小林 重敬（審査委員会 委員長）



深谷通信所の跡地利用は、横浜市が平成 17 年度、18 年度にかけて一定の方針を出し、その後、国有地の活用方策として国の方でも調査が行われました。首都圏における環境再生を図っていくという大きな方向性が出された上で今回のコンペティションがあったわけです。

審査にあたっては、地元の方々のご意向はどうか、横浜市だけでなく首都圏全体にとって、この貴重な空間をどう考えるか、ということに配慮しました。審査で苦労したことは、提案作品の質が高かったことです。非常に多様な密度の高い作品がこれだけ多かった例はあまりないと思っています。このコンペティションの成果を何らかの形で実現するよう、小松崎副市長を中心に市としても対応していただきたいと思っています。

(3) パネルディスカッション「アイデアコンペと今後の展開を考える」

コーディネーター 有路 信 (実行委員会副委員長/(社)日本公園緑地協会常務理事)
パネリスト 小林 重敬 (審査委員会委員長/東京都市大学教授、横浜国立大学特任教授)
山崎 洋子 (審査委員会委員/作家)
中村 智子 (一般部門入選/㈱ランドスケープデザイン設計部)
石川 幹子 (専門部門入選/東京大学大学院教授)
星野 裕司 (専門部門入選/熊本大学大学院准教授)
西ヶ谷 保秀 (泉区連合自治会町内会長会会長)
藤田 格 (横浜市都市経営局基地担当理事)

各者発言は概要を掲載

それぞれの立場から今回のコンペを振り返る



小林 現地を見た第一印象は、大きさ広さでした。首都圏という大きいレベルで考える一方、地域の方々が色々な形でそこに慣れ親しんでいる。私は、こうした大きな公共と小さな公共の組合せで次の時代の新しい空間を考えることが大きなテーマだと当初考えていました。実際には「新しい公共」はどう考えるのかという提案も中には色濃くあり、緑と食の関係、農の関係という様なものを突き詰めて考えていかなければ、これからの新しい公共を旗印にした空間利用の議論にはならないのではという気がしたのが印象的でした。



山崎 コンペで作家になった者として申し上げます。入選するには、まずルールをきちんと守ること。テーマがはっきりしていること、分かりやすいことが大切だと思います。応募作品のレベルは非常に高かったので、落ちた方もがっかりしないでください。



中村 深谷通信隊は近所で馴染みのある場所です。土日はすごく賑わっており、米軍施設と地元が上手く共存していると思います。昼の賑わいとは逆に、夜は本当に暗く、昼と夜という両面から作品を考えていきたいと思いました。地域の知人のアイデアも聞いて作品の参考にしました。

石川 横浜から始める首都圏

の環境再生という課題について、首都圏を考えることは世界、地球環境を考えることと受け止めました。水循環、生物多様性、ヒートアイランド、農、今どうしても考えなくてはならない大切なことを柱に据えて組み立てました。大学は深く考え自分を耕す場です。チームは夏休み返上で取り組み、樹木は一本一本丁寧に全部調べました。土地や場所の持つ歴史に敬意を払う。そこをきちんと知る。こういうことを目標にしてきました。



星野 動機は故郷で何かやっ

ているので参加しようという小さなものでしたが、関わってみて非常に大きなテーマだと感じました。返還後は少しずつ自分達の手で取り戻していくプロセスを大切に、米軍基地の結界の様なものが少しずつ崩れていけばいいなという思いを作品にしました。作品は、この3ヶ月間で学生とつくった思い出アルバムのようなものです。



西ヶ谷 地元を代表して発言

します。コンペの基本的な考え方に「接収の歴史を踏まえ」というのがありました。あの場所は昔から国有地ではなく、農家の方々が昭和12年に旧海軍から僅かな額で強制的に譲渡を迫られるという無念な思いの残る土地であることを、利用にあたって真剣に考えなければなりま



せん。地元の者としては、自然豊かな場所であり、返還後は元の自然に帰るのが基本だと思います。

藤田 横浜市としては市民と行政、議会の熱意を国に伝えて、出来るだけ早く返還が実現するように、原動力になればという思いで、このコンペを実施させていただきました。



ぜひ実現したいアイデア

中村 今も家庭菜園が盛んな所なので、野菜を育て、調理、食事、学ぶ、農業だけでなく発信の場となる公園が出来たらいいと思います。鉄塔はシンボルタワーとして残し、米軍施設があった土地の記憶として活かせればと思います。そして、昼の景観だけでなく、夜も楽しめる公園になるよう、夜の景観も考えていただきたいと思います。

星野 いきなりではなく、50年くらいかけて少しずつ森に変えていく。地域の人には普通の場所であることが大切です。ここで育った木が横浜中、日本中に広がって行って欲しいと思います。

石川 すぐにできる一歩が大事です。まず行政だけでなく皆で取り組むためのプラットフォームをつくる。そして土地に敬意を払い、森と水環境を回復する。地元のどんぐりから森の赤ちゃんをつくり、沢には多様な生物が住めるエコトーンをつくる。これを優先して欲しいと思います。

山崎 地元と協力してつくり上げるような提案、徐々につくって行って横浜の記憶になるような提案を実現して欲しい。地元の歴史を忘れないよう、中村さんの提案にあるような鉄塔の活用と歴史が分かる施設の併設を望みます。

実現に向けたプロセスについて

西ヶ谷 行政は今後の返還の取組やスケジュールなど地元にもっと情報を出して欲しい。アイデアコンペをやるだけで返還されたらと錯覚する人もいるので、よろしくをお願いします。

小林 計画の実現には資金が必要です。従来型の公共整備や PFI の他に、意義賛同型という第三の手法にチャレンジして欲しい。最近ではシードマネーと言っていますが、行政などが種になるお金を用意し、その上にアイデア実現のために市民や場合によっては首都圏の方々まで入れて出資者

を募って、10年や20年でなく、100年くらいかけて、後世に伝える新しい空間として甦らせるという意気込みでやったらどうかと思います。

石川 山の様にアイデアが寄せられましたが、一番大事なものは何で、切り捨ててもいいものは何かを見定めることが重要です。行政だけでなく地元や広域の方々も入ったプラットフォームで、捨てる作業をしていくことが大事だと思います。

山崎 地元の思いを第一に考えないといけません。地元の方も、自分たちでは気付かないような、他所の人のアイデアもじっくりと聞いていただいて参考にしていって欲しいと思います。

星野 今日話を聞いて、跡地利用はもう始まっていると感じました。今日は天気がいいし、本当は深谷で話し合えればいいのにと感じました。そういう意識で取り組んで欲しいと思います。



パネルディスカッションを振り返って

有路 まとめとして、たくさんの方々のアイデアの中からグローバルなことと地域をどういう風にマッチングさせていくか。新しい公共の視点、土地の記憶を大事にする



ということは共通認識としてあったと思います。もう一点は、実現に向けて、みんなで議論するプラットフォームづくりが大事だということ、そのための具体的施策として意義賛同型というご提案もいただきました。そういうことも踏まえて、今後、横浜市が中心となって検討していただきたいと思います。

* * *

(この他、会場の参加者からも多数の発言をいただきました。)

6. 実行委員会の活動記録

(1) 2008年度の活動

実施計画を策定

- 6月 2日 第1回実行委員会
- 7月 7日 現地視察
- 8月19日 第2回実行委員会
- 11月11日 第3回実行委員会
- 2月13日 第4回実行委員会
- 3月31日 第5回実行委員会（書面表決）



実行委員会発足 2008.6.2

(2) 2009年度の活動

アイデアコンペを実施

- 4月15日 事前登録開始、審査委員会設置
- 6月22日 事前登録締切（全802件）
- 8月24日 作品受付締切（全353件）
- 10月 5日 第1回実行委員会
- 10月20日 第1次審査（審査委員会）
- 11月 4日 作品展覧会・市民意見募集
～ 22日
- 12月 4日 第2次審査（審査委員会）
- 12月14日 第2回実行委員会（入選作品決定）
- 12月16日 入選作品公表
- 1月30日 表彰式・シンポジウム



現地視察 2008.7.7



実行委員会 2009.10.5

(3) 実行委員会委員名簿（敬称略・順不同）

委員長	社団法人 日本都市計画学会	副会長	岸井 隆幸
副委員長	社団法人 日本公園緑地協会	常務理事	有路 信
委員	特定非営利活動法人 日本都市計画家協会	常務理事	柳沢 厚
	社団法人 日本造園学会	監事	島田 正文
	財団法人 横浜市緑の協会	理事長	橋本 繁
	横浜商工会議所	専務理事	塚原 良一 (大澤 正之)
	社団法人 横浜青年会議所	副理事長	小原 健司
	泉区連合自治会町内会長会	会長	西ヶ谷 保秀
	戸塚区連合町内会自治会連絡会	会長	金子 正治
	横浜市	都市経営局 基地担当理事	藤田 格 (友田 勝己)
監事	神奈川県	総務部参事 (総務部次長)	関根 正明 (伊藤 茂利)
事務局	横浜市 都市経営局 基地対策部		

括弧内は2008年度委員

2010年3月発行

深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）実行委員会

構成：社団法人 日本都市計画学会、特定非営利活動法人 日本都市計画家協会、社団法人 日本公園緑地協会、社団法人 日本造園学会、財団法人 横浜市緑の協会、横浜商工会議所、社団法人 横浜青年会議所、泉区 連合自治会町内会長会、戸塚区連合町内会自治会連絡会、神奈川県、横浜市（順不同）

事務局 横浜市都市経営局基地対策部

（住所）〒231-0017 横浜市中区港町1 - 1

横浜市都市経営局基地対策部基地対策課 内

（URL）<http://www.city.yokohama.jp/me/keiei/kichitaisaku/ideacompe/index.html>

（TEL）045-671-2059

（FAX）045-663-2318